

コシアブラの接ぎ木栽培

群馬県林業試験場

○はじめに

コシアブラは、樹高20m程度になるウコギ科の落葉高木で、その若芽は山菜として利用されます。

タラノキと同じく、天ぷらなどに利用され、風味がよく、栄養価も高く、山菜の中でも特に優れた品目の一つです。春になると、農産物直売所などの店頭でよく見かけられるようになっており、近年、人気の山菜です。

しかし、コシアブラの栽培については、明確な方法が確立されていません。

林業試験場では、栽培技術の確立を目的に、接ぎ木による栽培方法を検討したところ、いくつかの成果が得られました。



写真-1 コシアブラの若芽

○接ぎ木のメリット

コシアブラは、実生の場合、発芽後の成長が非常に遅い樹種です。しかし、接ぎ木苗は、実生に比べ、非常によい成長をします。

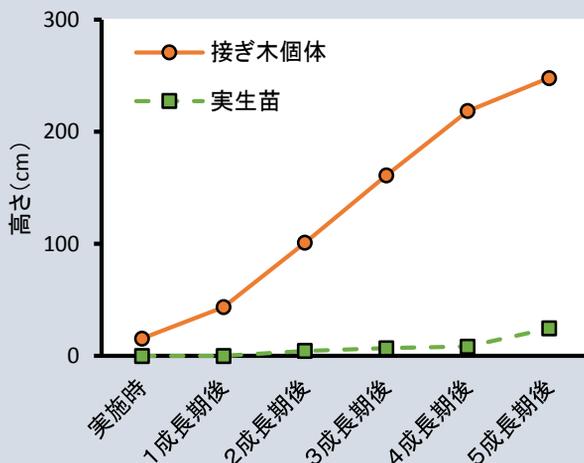


図 実生苗と接ぎ木苗の伸長量の比較

○栽培に適した環境

日当たりのよい林内(相対照度25%程度)が適しています。これまでの研究で成績がよかったのは、標高約550mの林地でした。畑や裸地でも可能ですが、接ぎ木活着後枯損するものが多くみられ、お勧めできません。



写真-2 栽培に適した林分の様子

○台木について

- 1 台木として使える樹種
タラノキ、ハリギリ、ヤマウコギ
- 2 台木の準備

台木は、山採り苗が活用できます。その場合、根量の少ないものが多いため、1年ほど養苗した方が有効です。増殖する場合、タラノキ、ハリギリは根伏せ、ヤマウコギは挿し木が有効です。

ポイント

ハリギリの場合、台木の太さ15mm前後のものを用いると活着後の成長がよい。



写真-3 根伏せで増殖したハリギリ



写真-4 挿し木で増殖したヤマウコギ

○接ぎ穂の採取、貯蔵

1 採取方法

2月下旬から3月上旬に採取します。その際、前年に伸びた枝を選びます。

2 貯蔵方法

採取した枝は、乾かさないようにポリ袋に入れ、接ぎ木を行うまで冷蔵庫に保存します。

ポイント

細い枝は、活着後伸びが悪い傾向にあるので、太さ5mm以上のものを採取する。



写真-5 接ぎ穂用コシアブラの枝



写真-6 接ぎ穂の貯蔵状況

○接ぎ木の仕方

1 実施時期

ソメイヨシノの開花日前後に実施します。

ポイント

台木の定植後、接ぎ木実施日までに夏を経過している場合は早めに、経過していない場合は遅めに実施すると成績がよい。

2 接ぎ穂の調整

保存した枝を、1芽(頂芽、側芽どちらでもよい。)付けて10cm程にします。

ポイント

接ぎ穂は、芽と接ぐ部分を除き、接ぎ木テープで巻く。



写真-7 調整した接ぎ穂

3 接ぎ木の方法

接ぎ木は、切り接ぎで行います。

○管理

日覆いは、必要ありません。活着後は、台木から出る芽の剪定、接ぎ木テープの除去、除草などを行います。

伸長状況に応じて支柱の設置も必要です。



写真-8
接ぎ木の状況



写真-9
活着した接ぎ木の様子

○接ぎ木個体の状況

接ぎ木個体は、6年後に3mを超えたものもあります。順調な生育をした個体は、若芽の採取が可能な状況になっています。



写真-10
6成長期後の接ぎ木個体の様子

問い合わせ先
群馬県林業試験場
370-3503

群馬県北群馬郡榛東村新井2935

TEL 027-373-2300

FAX 027-373-1036